

平成14年度予算

NEWS

ニュース

もくじ

市長インタビュー.....	2
経済の活性化.....	4
少子・高齢社会に対応した地域福祉の推進.....	6
環境と調和したゆたかな暮らしの実現.....	8
総合交通対策の推進.....	10
市民文化の創造とスポーツの振興.....	11
市民・企業・行政のパートナーシップの推進.....	11



平成14年度がいよいよスタートしました。今年度は、現在進めている5年計画の3年次目。計画の達成にめどをつけるため、各種施策を着実に推進しつつ、緊急に取り組むべき政策課題については、特に重点を置いた予算となっています。新年度予算のポイントについて桂信雄市長に聞きました。



総額1兆5千431億円 政令指定都市へ移行後 実質初のマイナス予算に

まずは、当初予算の規模からお聞きします。

今年度の総額は、前年度比一・六%減の一兆五千四百三十一億円になりました。上下水道や交通事業などの企業会計と、国民健康保険などの特別会計を除く一般会計では、前年度比二・七%減となる八千二百七十二億円を計上しています(次ページの表参照)。

金額にして実に八十七億円も減少すると見込んでいます。その一方、公債費や扶助費などの義務的な歳出(支出)要素はどんどん膨らんでいきます。また、恒常的に赤字収支となっている国保会計や交通事業への多額な繰り入れも財政を圧迫する要因の一つとなっています。

事業の減少で予算規模が実質的にマイナスとなるのは、政令指定都市になってから初めてのことです。しかし、地方財政計画全体の一般歳出は三・三%減であることを考えると、減少の幅は小さく抑えられたと考えています。

中長期的に見ても、国の構造改革プログラムに伴い、地方交付税や国庫支出金など、国から市に入るお金に見直しの動きもあることから、本市の財政を取り巻く状況は極めて厳しいという認識を持っています。

やはり、長引く景気低迷による歳入(収入)の伸び悩みが一番の理由ですね。特に、今年度については、法人市民税の大幅な落ち込みから、市税収入は前年度比三・二%、

厳しい財政環境の中、行財政改革の進み具合はどうなっていますか。

これまで、行財政改革推進計画(十、十四年度)に基づいて、職員一丸となって行財政改革を進めてきました。その結果、この計画に盛り込んだ各課題については、ほぼすべてで実施の見極めがつかない

ど、取り組みは順調に進んでいると考えています。(数値目標は次ページのグラフ参照)。

行財政改革の取り組みで、今年度予算には、約五十四億円の財政効果を反映させることができました。その主な内容としては、職員数や事業の見直し、事務的な経費の節減、団体への補助金の見直しなどとなっています。

市長インタビュー

総額1兆5,431億円の予算に込めた思いを語る
桂信雄市長

